UAゼンセン・製造産業部門
安全衛生通信
10月号
No.109
発行日：2024 年 10 月 15 日
発行責任者：藤岡　良太
作成：パナソニックエナジー貝塚労働組合
藤原　保
編集:労働安全衛生対策委員会

深刻な 転 倒 災 害 の発生状況

厚生労働省
「職場のあんぜんサイト」

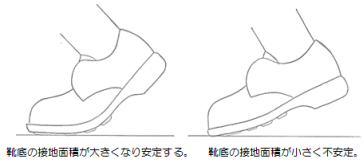
転ぶだけで労働災害？！　「転倒」による労働災害が増加しています。
職場で転倒し休業（４日以上）となってしまう「転倒災害」が多発しており、労働災害（休業４日以上の死傷災害）全体の２割を占め、深刻な問題となっています。
また、職業生活を含めた一般生活の中でも、転倒・転落で亡くなる方は交通事故で亡くなる方よりも多く、転倒の防止は今や国民的課題です。
「転倒災害」の対策には、いろいろと項目があります。
厚生労働省のサイトなどを参考に、各職場に適した対策を考えましょう！！

その靴、あなたの作業にあっていますか？

転倒災害防止対策の一つ　靴選びのポイント５選

STOP! 転倒災害プロジェクト

①靴の屈曲性
靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかり、擦り足になり易くなり、つまずきの原因です。



②靴の重量
靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になり易く、つまずきの原因になります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では 900g/足以下のものが良いといわれています。

③靴の重量バランス
靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく（トゥダウン）、無意識のうちに擦り足になり、つまずき易くなります。

④つま先の高さ
つま先部の高さ（トゥスプリング）が低いと、ちょっとした段差につまずき易くなります。高年齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向のため、よりつまずき易くなります。

⑤靴底と床の耐滑性のバランス
滑り易い床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑り易さの程度に応じたものとする必要があります。

重大労働災害が発生した際は「重大災害発生報告書」をご提出ください。類似災害防止策の検証に役立てます。
詳しくは製造産業部門まで